道路あと

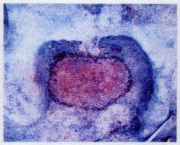
詳しくは「路面状遺構」といいます。地面をでこぼこ苦して歩きやすくするために、低いところに土を入れて固めてあるので、土を入れた穴のあとがうねなって見つかります。土はにがり（海水の塩分をこくしたもの）で固められていたようです。
宮道跡で見つかったこの道路あとは、おおよそ古墳時代ごろのものと考えられています。

V-3-⑤

複式炉

縄文時代の中ごろから終わりごろ（5000年～4000年前）にかけて東北地方を中心に流行した、火をたくための（炉）です。くわしいことはまだよく分からないこともあるのですが、土器の中に炭（火をつける時のもとになる火）や灰（木の実のあく抜きをするのに使う）を入れ、調理をするのに使ったと考えられています。

V-3-⑥



焼土

長い時間にわたって地面の同じ場所で火をたいていると、その部分の土が赤く変りてきます。これが焼土です。名取の遺跡では、家の中だけでなく家の外からも焼土のあとが見つかっています。

V-3-⑦

管玉

石やガラスの玉に穴をあけて作った飾りのことです。ひもを通してつなぎ、首飾りなどとして使ったのではないかと考えられています。弥生時代には碧のような石のものが多く作られました。
宮道跡の土こう墓からは、石で作られた管玉が見つかっています。

V-3-⑧

体験コーナー

VI

○石鹸で紙を切ってみよう！

・石鹸を使って、紙に書いた形を切りぬいてみよう！うまくできるかな？

⚠ 石鹸は大変よく切れます。危ないので、必ずてぶくろをしてからやってね！

VI-1

VI-1-①

VI-1-②

VI-1-③

○本物の土器にさわってみよう！

・名取市内の遺跡から見つかった本物の土器です。縄のもようがはっきりと分かるね！

⚠ 古い物なのでこわれやすくなっています。優しくあつかってね。

VI-2

○昔の道具にさわってみよう！

・昔の道具と同じ物を作ってみました。君には重いかな、軽いかな？

⚠ かたいところやとがったところがあります。ふりまわしたりすると危ないのでぜったいにやめてね！

VI-3